

平成28年度中央区教育委員会
平成27年度東京都教育委員会
平成28年度東京都教育委員会

オリンピック・パラリンピック教育推進協議会
オリンピック・パラリンピック教育推進校・研究開発校
オリンピック・パラリンピック教育推進重点校

実践報告

豊かな心と健やかな体の育成

オリンピック・パラリンピック教育の実践と充実を通して



久松のオリンピック・パラリンピック教育の3つの重点目標と大切にしたいこと

人権・平和

平和なよりよい社会の構築を目指す態度と豊かな心を育成する

人権教育

平和教育

障害者理解

相互理解・共生

国際

国際教育の充実を図り、豊かな心を育成する

国際教育

自国文化理解

多文化理解

自己表現力

相互理解・共生

健康

運動やスポーツの魅力と人間のもつ可能性を学び、豊かな心と健やかな体を育成する

健康教育

キャリア教育

福祉教育

相互理解

人権教育

豊かな心・健やかな体 思いやりの心 知・徳・体のバランスのとれた共生社会の担い手 フェアな精神



平成28年6月17日

中央区立久松小学校・幼稚園

オリンピック・パラリンピック教育全体計画

中央区立久松小学校

学校教育目標 「強く 正しく 豊かに」

- 心身ともに健康で、自律と自立のための強い意志と向上心を持ち、自らよりよい成長を目指す。
- ものごとを正しく見つめ、正しい判断と行動のできる主体性を身に付ける。
- 豊かな心情や創造性を高め、互いに尊重し合い、思いやりの心を持ち、共生社会の担い手となる。

オリンピック・パラリンピック教育の目標

- ・スポーツを通じた人間育成と世界平和
- ・スポーツに親しみ、知・徳・体の調和のとれた子の育成

オリンピック・パラリンピック教育を通して、国際的な視野を養い、世界の平和に向けて活躍できる人材を育成する。オリンピック・パラリンピックを学ぶことだけではなく、オリンピック・パラリンピックを題材として、世界に広がる多様な価値を学ぶ。

各関係機関との関連

- 国際オリンピック委員会の目標や取組
オリンピック憲章（5つの教育的価値）
 - ・努力する喜び
 - ・フェアプレイ
 - ・他者への尊重
 - ・卓越さの追及
 - ・身体、意志、心の調和
- 日本オリンピック委員会の目標や取組
 - ・オリンピック・パラリンピック教育推進校【研究開発校】
 - ・一校一国運動
 - ・1日校長先生
 - ・「夢・未来」プロジェクト
- 中央区教育委員会の目標や取組
 - ・オリンピック・パラリンピック学習
 - ・中央区版一校一国運動
 - ・ハートフルスポーツ
 - ・体力向上

本校の教育活動との関連

- オリンピック・パラリンピック教育で求めている「スポーツを人類の調和のとれた発達に役立てること、人間の尊厳保持に重きを置き、平和な社会を維持すること」は、本校の教育目標「強く 正しく 豊かに」に具体的に取り組むにあたり、重要で効果的な内容である。
- 平成25・26年度中央区教育委員会研究奨励校として、研究主題「豊かな心と健やかな体の育成」を掲げ、研究・実践に取り組んできた。オリンピック・パラリンピック教育の内容は、これまで取り組んできた内容（自ら課題を発見し、協働的学習で解決する）と軌を一にするものである。

重点目標と主な取組

研究主題「豊かな心と健やかな体の育成」の推進・充実を図るために、全教育活動を通じたオリンピック・パラリンピック教育を実践する。

重点目標

主な取組

教育的価値

人権・平和

- オリンピック・パラリンピック教育の理念などの学習を通して人間の尊厳保持に重きを置き、平和なよりよい社会の構築を目指す態度と豊かな心の育成を図る。

- 人を大切にする思いやりの心と平和な社会を築こうとする態度を養うために、オリンピック・パラリンピックの歴史や意義、理念等を学年に応じて学ぶ。
- 共生社会を築き、互いに支え合って生きようとする態度を養うために、アイマスク体験、車いす体験等を行う。様々な立場に立って物事を考えることのできる力を育む。

- 人権教育
- 平和教育
- 障害者理解
- 相互理解・共生

国際

- オリンピック・パラリンピックに参加する国や地域の文化や歴史等を行事や授業で学習するとともに、国際教育の充実を図り、豊かな心の育成を推進する。

- 他国の文化や習慣のよさを知り多様性を尊重するとともに日本の文化を見直し、日本に誇りがもてる児童を育成するために、国際教育を位置付け、オリンピック・パラリンピックに参加した国や地域の文化や歴史などを直接的な交流を取り入れて学習する。インターネット通信の活用による外国との交流学習を進める。
- 「久松しぐさ」の充実を通じ、他者を尊重する態度を育む。（おもてなしの心、礼儀含む）

- 国際教育
- 自国文化理解
- 多文化理解
- 自己表現力
- 相互理解・共生

健康

- オリンピック・パラリンピアンと児童との直接的な交流を通して、運動やスポーツの魅力と人間のもつ可能性を学び、豊かな心と健やかな体の育成を図る。

- 健康・体力の増進に向けた体育授業等日常的な実践を推進・充実するとともに、障害のある人や関係者との交流を通して思いやりのある心・豊かな心の育成を図るために、オリンピック・パラリンピアンと直接的に交流する。
- 生涯にわたって運動・スポーツに興味・関心を持ち、健康的な生活を送る態度の基礎を培うために、オリンピック・パラリンピアンと児童との直接的な交流を保護者にも公開する。

- 健康教育
- キャリア教育
- 福祉教育
- 相互理解
- 人権教育

横断的な教育活動(各教科等の年間指導計画への位置付け)

【人権教育】

- ・ 偏見や差別をなくし、人権尊重の精神を培い、個人の多様性を認識できる児童を育てる。
- ・ 社会的に弱い立場にある人々に対する理解を深め、学校や地域社会の一員としての連帯感をもとうとする児童を育てる。

【平和教育】

- ・ 世界の国々や民族のことを知り、自分にできることを考え、互いに支え合って平和な社会を築いていこうとする態度を育成する。

【国際教育】

- ・ 日本人としての自覚と誇りをもち、主体的に生きていく上で必要な資質や能力の基礎を養う。(コミュニケーション能力の育成)
- ・ 豊かな人間性を核に、国際社会を生きる豊かな国際感覚を育てる。

【健康教育】

- ・ 自分を大切にする気持ちを日常の中で育みながら、自分の生活と健康の関係についての理解を深め、健康の大切さを実感できるようにし、自主的・自発的な健康づくりへの意欲や実践力・自己管理能力を育成する。

【キャリア教育】

- ・ 自己及び他者への積極的関心の形成・発展・身の回りの仕事や環境への関心・意欲の向上を図る。

【福祉教育】

- ・ 人間尊重の精神を基盤に、協力してよりよい生活を築こうとする能力や態度を育成する。

家庭・地域社会・各機関との連携

- トップアスリート(オリンピック・パラリンピアン)によるスポーツ教室(見学・参加の推進)
- 地域行事・スポーツ大会への参加(わんぱく相撲・はねつき大会への参加)

校内環境の整備

- オリンピック・パラリンピックに関する掲示
- スポーツ教室に関する掲示

教科等 アクティブ・ラーニング(効果的な小集団活動の充実を通して)

【国語】

- ・ 「日本橋かるた」で伝統遊びに親しみ、地域のことを知る。
- ・ 「話す・聞く」の単元で障害者理解教育、国際教育の充実を図る。

抜粋

【社会】

- ・ 地域の伝統や文化に触れ、日本ならではのよさについて知る。
- ・ 世界の国や地域と日本とのつながりについて考え、国際理解を図る。

【音楽】【図画工作】

- ・ 外国及び自国の伝統や文化を感じながら歌唱や演奏、創作活動等に取り組み、それぞれの国のよさやその多様性について知る。

【体育】

- ・ 生涯にわたって運動に親しむ資質や能力の基礎を培う。
- ・ 運動に親しむ資質や能力の育成、健康の保持増進、技能・体力の向上を図る。

【道徳】

- ・ 人と人の心のふれ合いを大切にし、豊かな心をもった児童を育成する。

【英語活動・外国語活動】

- ・ 進んでコミュニケーションを図ろうとする態度を養う。

【総合的な学習の時間】

- ・ 自ら課題を見付け、問題の解決や探究活動に主体的、創造的、協働的に取り組む態度を育成する。
- ・ 人との交流や体験活動を通して、他者や自分と異なる考えなどについて知る。

平和なよりよい社会の構築を目指す態度と豊かな心の育成を図る。

人権教育

平和教育

障害者理解

(相互理解・共生)

高学年 体育朝会等「オリンピック・パラリンピックの世界へようこそ」

「オリンピック・パラリンピックそのものを学ぶ学習」とし、各教科等で行うオリンピック・パラリンピックの教育のオリエンテーションと位置付けて、主に高学年を対象として行う。



オリンピック・パラリンピックとはどのような大会であるのか、その意義や歴史、開催に伴う社会の変化や人々の努力について学ぶことで、全体像を捉えることができるようにした。全体計画を基にした各教科等での学習の高学年でのオリエンテーションと位置付け、多様な教育的価値について触れたときに、オリンピック・パラリンピックにいつでも立ち返り、より深く課題意識をもって考えることができるようにしている。

オリンピック



オリンピックの歴史や現在、オリンピズムやオリンピック・モットーなどについて知り「平和の祭典」とも言われているゆえんへの理解を深める。また、選手のエピソードや言葉にも触れ、スポーツの素晴らしさを知るとともに、自己の生活にも積極的に活かそうという意識をもつことができるようにする。

パラリンピック



オリンピックと同様に「スポーツの祭典」ではあるが、障害の有無を超えて、自己の限界に挑戦する選手の努力や精神の素晴らしさに触れる。パラリンピックで選手が使う道具や競技方法などを写真や映像で、具体的に説明するようにする。障害者を理解することができるように配慮し、障害の有無に関わらず、誰に対しても平等に接していくことの大切さを感じることができるようにする。

留意点

◎オリンピック・パラリンピックについての理解を深めると同時に、興味・関心を高めることが大切である。
◎各教科等での教育的価値を学ぶ様々な学習につながるような内容となるよう十分に配慮する。

平和なよりよい社会の構築を目指す態度と豊かな心の育成を図る。

人権教育

平和教育

障害者理解

(相互理解・共生)

第4学年 社会「外国の方に東京都のよさを紹介しよう～2020東京ガイドブック～」

東京都のよさを外国に伝えるために、社会科で学んだ東京都の特徴をまとめる。近代的な様子、伝統や文化、日本人の心について考え、平和なよりよい社会の構築につながる豊かな心を育てる。

オリンピック・パラリンピック学習読本
「日本人の心 世界に誇る日本の技術等」



社会科副読本 わたしたちの東京都
「他地域や世界とつながる東京都」

2020東京大会 日本に訪れる外国の方々に
東京のよさを伝えるガイドブックをつくろう



東京都と他地域や世界とのつながりを考える単元の発展的な内容として、オリンピック・パラリンピック2020東京大会に配布することをイメージしてガイドブックを作成した。

東京都の特徴



社会科で学習した以下のような東京都の特徴に関する内容を含めるようにした。

- ・日本の国土における東京都の位置
- ・受け継がれる伝統工芸品や産業
- ・島の自然を生かした人々の暮らし
- ・江戸の文化を今に伝えるまち

日本人の心



教育的価値を深めるために『日本人の心』について読本を活用して学級で話し合った。「やさしい心」「和の心」「平和な心」「感謝の心」「相手を敬う心」について、一人一人が伝えたいことを整理してまとめた。

2020年に東京を訪れる外国の方々に日本のよさを伝え、おもてなししたい。

留意点

◎東京都について他の人にも伝えたいという思いをもつことができるようにする。◎外国の方々に伝えるという相手意識をもつことができるようにすることで、東京都や日本のよさをシンプルで分かりやすいガイドブックとしてまとめることができる。

平和なよりよい社会の構築を目指す態度と豊かな心の育成を図る。

人権教育

平和教育

障害者理解

(相互理解・共生)

第4学年 国語・総合的な学習の時間「だれもがよりよく関わり合えるように」

共生社会を築こうとする態度や互いに理解し支え合う態度を育成するために、アイマスク体験・車椅子体験・点字体験などを行い、その教育的価値に触れる。

4学年 国語「だれもが関わり合えるように」(光村図書)

- 調べたことを整理し、発表しよう
- ・調べながら、工夫して記録する。
- ・調べたことを整理して、分かりやすく発表する。



この国語科の単元は「調べたことを分かりやすく発表する」という話す力・聞く力を育む学習である。福祉が題材であり、国語科の学習のみでも障害者への理解を図ることができる。しかし、総合的な学習の時間での体験活動や調べ学習にも広げることで「障害者理解教育」「人権教育」「相互理解・共生」に関する価値に、より幅広く、より深く触れることができるようにした。(問題解決的学習を進める中で、すべての児童が障害のある人との共生を考え、共生社会の一員としての姿勢、態度を考えることができた。また、それぞれの考えを友達に伝え、これからの生活における明確な目標をもつこともできた。)

福祉体験



障害のある方との交流、そしてボランティア体験(点字・手話・シニア・車椅子・アイマスク)を通して障害を肌で感じ、人と関わり合うために大切な心を知ることができる。以後の学校生活において、思いやりのある行動を多く目にすることができるようになる。

障害者スポーツ



障害者スポーツの映像を活用することで、オリンピック・パラリンピックへの関心が高まる。(パラリンピアンへの講演でも真剣に話を聞く姿が見られ、選手の思いにより共感できるようになった。)

障害の有無に関わらず、誰に対しても相手の気持ちを考えて接していきたい。

留意点

◎障害の有無は特別なことではなく、みんな幸せを求めて、毎日を楽しく、一生懸命に生きているということに気付くことができるようにし、人とよりよく関わり合っていこうという思いをもつことができるように配慮する。

平和なよりよい社会の構築を目指す態度と豊かな心の育成を図る。

人権教育

平和教育

障害者理解

(相互理解・共生)

全学年 児童会活動・異学年交流「ユニセフ活動」「勤労感謝集会」「幼保との交流」「落ち葉拾い」

様々な人との関わりを通して思いやりの心を育み、誰に対しても誠意をもって接することのできる心情を育む。自己を支える周囲の人々への感謝の心をもつことができるようにする。

ユニセフ活動



朝の募金活動の様子



ユニセフ集会の様子

ユニセフの活動の意味と世界の国々の子どもたちの様子を知ること、自分たちにできることについて考える。

勤労感謝集会



感謝状をつくり集会で表彰



感謝の気持ちを込めてありがとうの花の合唱

学校や地域でお世話になっている方に来ていただくことで、たくさんの方々の支えで、毎日の生活が成り立っていることを実感することができる。

幼稚園・保育園との交流



優しく声を掛けながら活動



人形劇の合同鑑賞

平成27年度は展覧会があり、4、5年生が幼稚園児・保育園児といっしょに人形劇に登場する動物を紙粘土で製作し、展覧会で展示した。

落ち葉拾い



低学年の頃からボランティアの心を育むことのできる活動



下級生に優しく声を掛ける上級生

兄弟姉妹学年で毎朝校庭の落ち葉拾いを行っている。地域清掃にも取り組み、ボランティアへの意識も高めている。

サポーター活動



6年生にはサポーターとして下級生の指導に当たる機会を増やしている。

朝の習慣が身に付くように新1年生をサポート

泳ぐことの楽しさや喜びを味わえるようにサポート



異学年・兄弟姉妹学年・地域の人等、様々な人とよりよく接していきたい。

留意点

◎特に事前指導が大切であり、それぞれの交流活動の意図を踏まえた上で活動できるように指導を行っておくことで、よりよい交流活動を展開することができる。

中学年 国語・社会・総合的な学習の時間「地域のことを知る 分かったことを共有する」

地域理解学習を通して、歴史と伝統のある街に見守られて成長しているという自覚と感謝の念をもたせることで、自国文化理解をめざす。

日本橋かるた

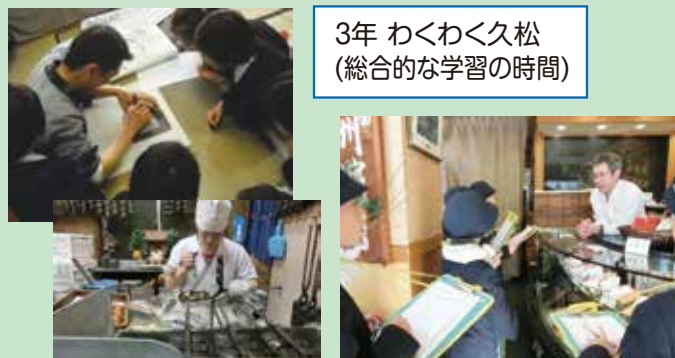
3年 国語



日本に古くから伝わる伝統的な遊びのかるたを通し、学区域でもある日本橋地区の特徴や名所、旧跡を知る。1月に実施される大会に参加することで、地域の人々とのつながりを子どもたちなりに感じる機会となる。

教えてあげる! 人形町のとっておき!

3年 わくわく久松
(総合的な学習の時間)



地域にある店や神社、寺院、職人さんの家などをグループごとに訪ね、その歴史を聞いたり、技や道具を見せてもらったりする。また、直接インタビューすることで地域の人々の思いや願いを知る機会とする。

明治座 見学

3年 わくわく久松



久松小学校開校の年、1873年(明治6年)に開場して以来、歌舞伎や演劇の日本を代表する劇場が、自分たちの住んでいる地域にあることを知り、その歴史を知ったり施設を見学したりすることで、地域への愛着を高める。

きものサローネin日本橋 見学

4年 社会



YUITO日本橋室町で開催される国内最大規模のきものや日本の伝統工芸等のカルチャーイベントである。学区域に和装問屋があることや、「本物に触れる」ということから、日本のきもの文化や、伝統工芸の体験などを通して日本文化の理解を広げる。

横山町問屋街 見学

3年 社会

江戸時代からの歴史ある問屋街が学区域にあるということはもちろん、流通の上での役割を学ぶ。そこで働く人々の工夫や苦勞、街を元気あるものになっている努力などを知る。



小津和紙 和紙づくり

4年 社会

地域にある老舗の伝統工芸体験コーナーで和紙づくり体験をすることで先人の知恵や工夫に気付かせる。



留意点

◎見学や体験だけで終わることのないように、その意義や町の人々の思いに気付くことができるように配慮する。

全学年 特別活動「久松しぐさ」

「久松しぐさ」の取組を通して、おもてなしの心や礼儀などの思いやりの意識を高め、他者を尊重する態度を育む。

久松しぐさ集会



代表委員会を中心に、春と秋の2回全校で行う。「久松しぐさ」についての理解を深め、全校で共有し、思いやりのあふれる久松小学校をみんなで築いていこうとする意識を高める機会とする。

久松しぐさ

家が狭く、隣の人が家族同然だったため、自然と周りの人に目を向け、共に生活することが当たり前だった江戸の町。そのような中で後世、お互いの思いやりや心配り、挨拶をするしぐさが育ち、その行いが「江戸しぐさ」と名付けられた。本校では、その「江戸しぐさ」を習い、「久松しぐさ」と名付け、礼儀や思いやりの心を育てようと考え、取り組んでいる。

あいさつ運動 (久松しぐさの一環として)



3年生から6年生まで、学級ごとに1週間交代で、玄関で登校児童にあいさつを行う。あいさつし合うことの気持ちよさを感じ、自分のあいさつについて振り返ることのできる機会とし、あいさつへの意識や意欲を高める。

久松しぐさの木 (各学級ごと)



友達の思いやりある言動を見付け、各学級の久松しぐさの木に貼り貯めていく。人を認める心、自分も人に思いやりをもった言動をしようとする心を育てていく。

今週の久松しぐさ



各学級から出された久松しぐさの木のカードをもとに全校の久松しぐさをつくり、共有する。自分たちでつくった久松しぐさをみんなで意識し、大切にするにより、思いやりの心を育てていく。

全校久松しぐさの木



各学級で見付けた久松しぐさを全校朝会などで発表し、玄関の大きな木に貼り貯めていく。情報交換を行うことにより、全校での共有意識を高める。

留意点

◎教師からの押し付けや、指導的なものにならないようにする。そのため、児童の思いやりある行動や言葉を児童相互が認め合えるようにし、児童の主体的な活動になるよう配慮する。

第4学年 総合的な学習の時間「食べるってなんだろう」

体験的な学習から、「食べる」ということについて考えを広げたり、深めたりすることを通して、自国の食文化理解を深め、自分のこれからの食生活に生かそうとする態度を育てる。

「食べる」とは、どういうことかをみんなで考えてみよう。

味・栄養・給食・魚・肉・野菜・食器・体をつくる・生活のエネルギー・自分の命・毎日当たり前に行っていること・ないと困ること…などたくさんの意見が話し合いから出てきた。この話し合いで「食べる」ことへ課題意識を高め、活動をつなげる。

マイ箸づくり



箸の正しい持ち方やマナーについて教えてもらう。

自分にぴったりサイズのマイ箸。次の、お弁当づくりの活動につなげる。



日本での箸と食文化とのつながり、歴史や便利さ、マナーなどを教えてもらい、その後、自分の手のサイズに合った箸づくりを行う。箸づくりを通して、食べることや箸を使うことなど日本の食文化に関心を深める。

お魚マイスター



一人一匹ずつ命をいただく。

魚のつくりを知ること、魚にも命があることやどのように食べたらよいかがわかった。



島国である日本の食は魚に支えられてきた歴史や、魚の栄養、魚のつくりなどを知り、命をいただいていることの大切さを感じる。その後、その思いをもち、箸を使い児童一人一匹ずつの魚をいただく。

「食べる」とは、どういうことかをもう一度みんなで考えよう。

食べることが日本の歴史とつながっていることに驚いた・食べ物や食べることをもっと大切に感じた・日本人として箸を正しく使い食べられるようにしたい・命のあるものに感謝しながら食べたい…などの考えが、体験後の話し合いから多く出てきた。自国の食文化理解とともに感謝の気持ちをもち、これからの自分の生活に生かそうとする思いが育った。

留意点

◎体験の楽しさで終わることがないように、自分の生活と照らし合わせて考えるような振り返りや話し合いを行う。また、その後の給食指導や4年生以上のお弁当づくりなどにも随時生かし、思いをつなげられるようにする。

第6学年 社会科「日本の文化や日本の歴史」

他国の文化や習慣のよさを知り多様性を尊重するとともに日本の文化や歴史を見直し、日本人としての自覚と誇りをもち、主体的に生きていく上で必要な資質や能力の基礎を養う。

自己の考えを大切にする



社会科 「国づくりへの歩み」

～資料から大和朝廷が国土を統一していく様子を考える～

世界の国や地域と日本のつながりについて考え国際理解を図るとともに、自国の成り立ちについて、資料をもとにして「自己の考え」をもつことを大切にする。自己の考えを構築する時間を十分に保障した結果、自国についての興味・関心が高まり、先人の努力や思いを想像したりすることによって、自国の歴史への理解が深まり、日本に誇りをもつきっかけとする。

自国文化理解

正しい知識による
自国文化理解



協働的な学び

多様性を尊重する
気持ちの育成



「日本が様々な国からの影響を受けながら国土を統一していく過程の中で形成されていった」ということを、資料を根拠にしなが自分なりに立てた推測を、小集団で意見を交流する協働的な学びの時間の中で大切にしたい。交流中「なるほど。その考えもあるかもしれないね」などの共感的なものもあれば、「その考えも分かるけれど、当時の状況を考えると、可能性としては低いかもしれないね」といった、他の意見を尊重しながらも、正しい歴史認識に向かう言葉掛けも多く見られた。

自国文化理解を深める過程で、友達の意見を交流したことで他を受け入れながらも、自分の考えも大切にするという気持ちや、コミュニケーション能力といった「豊かな心」の育成には欠かせない部分を養うことができた。

留意点

- ◎自国文化を正しく理解するために、子どもたち同士の交流の後、何が正しいのかが不明確なまま終わってしまわないように、歴史的に正しい知識をまとめる時間を確保する。
- ◎児童の考えの根拠になりうる資料は、どのような意見が出そうか予想しながら精選する。

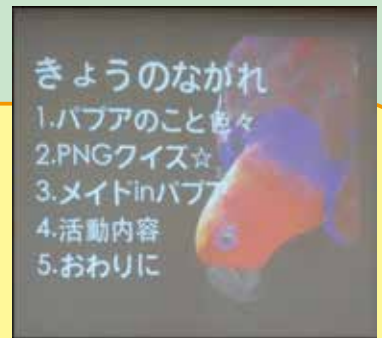
第4学年 総合的な学習の時間「知ろう!世界の文化(JICA国際協力出前講座)」

青年海外協力隊員としての体験談を聞くことを通して、世界の国や地域の生活や文化に触れ、これから国際社会を生きる上で必要な国際感覚を磨くことができるようにする。



「知ろう!世界の文化 ～パプアニューギニア編～」
ゲストティーチャー 元青年海外協力隊員

映像や実物を織り交ぜながらの説明は、児童の想像を膨らませることにつながり、現地のイメージをもちながら話を聞くことができた。パプアニューギニアは児童にとって普段はあまり耳にしない、印象の少ない国であったが、時間の終わりには、国の特徴をよく理解したようで「行ってみたい」という声がたくさん聞こえてきた。



多文化理解



パプアニューギニアの衣服や装飾品、楽器などを目にし、国によって生活様式が全く異なることを感じる事ができた。「自分だったらこれがほしい」「この色がいい」とつぶやく児童もいて、他国の文化のよさに触れ、受け入れる姿を目にすることができた。
また、日本の文化として根ざしているものは、日常の生活様式と密接に関わり合っていることを理解することができた。

国際感覚の育成



1時間の学習を終えて、自分たちの「当たり前」は、他国では当たり前とは言えないこと、共通しているのは皆が「幸せ」を求め、感じながら生きていることを実感することができた。
ゲストティーチャーの話から、これからの国際社会を生きるために必要な、多様な国際感覚を磨くことができた。
この学習をきっかけとして、国際社会に関心をもち、一人一人がそれぞれの視点で他国への理解を深めていくことができると考えている。

留意点

◎世界の国や地域、人々との相違点を感じることで、他国・他者を理解・尊重し、これからの国際社会を共に生きていくという国際感覚を育むことができるように、事前・事後指導をしっかりと行うことで教育的価値を深める。

第5学年 総合的な学習の時間「外国のことを知ろう(インターネット通信授業を通して)」

- ・西川さん(自転車冒険家)が行く国(平成27年度はベトナム、ニュージーランド・28年度は北・中央・南アメリカ大陸)の文化を理解する。
- ・外国の人々とインターネット通信で関わることを通して、外国の文化に興味・関心をもち、国際的な視野をもてるようにする。また、国際親善や世界の平和の実現に貢献しようとする態度を培い、あわせて自分やみんなを大切にする心を育てる。

導入授業



アジアの人とつながろう(ベトナム編)
地球の教科書サイクリスト 西川昌徳さん

導入授業では、西川さんに学校に来ていただき、今まで行った国の話をしてもらおう。(文化・宗教・食べ物・世界遺産等)子どもたちは自分たちで調べたことを発表し、興味をもったことを西川さんに伝える。これからインターネット通信を通して現地の人と直接話してみたいという気持ちをより強くもつ。

インターネット通信授業(1)



- ・インターネット通信授業を通してベトナムの人と話をし、感動した。
- ・調べたことの中から興味をもったことを質問して答えてもらい、ベトナムのことにより興味をもつことができた。
- ・ホーチミンとハノイの2か所からのインターネット通信で、日本との生活の違いを理解することができた。幸せは生活が豊かで、便利なことだけではないことに気付くことができた。

インターネット通信授業(2)



- ・司会を子どもたちに任せたことで、主体的な活動につなげることができた。
- ・インターネット通信授業に先方の学校の子どもたちに出演してもらい、より身近に話をすることができた。
- ・4回のインターネット通信授業を通して、言葉が通じなくても、気持ちは通じることや、世界には、親切な人がたくさんいることを知った。

留意点

◎世界の国の人々と交流し、自国・他国を理解し、認めていくためには、計画的な事前指導などにより、よりよい交流を進めていくことが大切である。◎国際感覚を身に付けるために、自ら調べ質問し、主体的に活動していくことやそのための準備を大切にする必要がある。

全学年 地域行事・スポーツ大会「わんぱく相撲・羽根つき・日本橋かるた大会」

地域行事・スポーツ大会を通して、日本の伝統・文化や地域の歴史・特色を知る。また、伝統行事での礼法指導や地域の方々との関わりを通して感謝する心を育成する。

わんぱく相撲



荒汐部屋にて



体育館で

わんぱく相撲大会に向け、練習の始めに礼法の意義を説明し、練習を通して大切にしていくことで、相手を敬う心・感謝する心を育てていく。

また、学区内にある荒汐部屋の御厚意で学校に力士の方々が指導に来てくださったり、相撲部屋で特別稽古をさせてもらったり、本物にふれる機会があることで、相撲への理解がより深いものとなった。

60年続く歴史ある羽根つき大会が地域のスポーツ大会としてあり、低学年の体育の中で羽根つきにふれる機会を設けている。また、大会に向けて異学年で練習することを通して、上学年は下学年にこつやあいさつなどを積極的に助言する姿が見られるようになった。



練習の様子



大会の様子

羽根つき大会

日本橋かるた大会



日本橋を題材にしたかるた

3年生の学習の中で日本橋を題材にしたかるたに取り組んでおり、かるた遊びを通して地域の歴史や特色を知ることができる。

大会では始終のあいさつをしたり、地域の方々に関わったりすることを通して、社会性や感謝の気持ちを育むことができた。

留意点

◎勝ち負けにこだわり過ぎないようにする。◎日本の伝統・文化でもある礼法の意味を知り、久松しぐさの活動と関連付けて勝っても負けても相手に礼を尽くすことの大切さに気付くことができるように日々の活動・練習から配慮する。

第4学年 音楽科 題材：日本の音楽に親しもう
 第5学年 音楽科 題材：日本と世界の音楽に親しもう
 第5学年 音楽科 題材：久松小学校の歴史と地域の文化を知ろう

- ・日本の音楽や和楽器の音色に親しみながらその特徴やよさを感じ取り、日本の文化を理解し伝承する大切さを知る。
- ・日本の音楽と世界のいろいろな国の音楽との違いに気付くことで、他国の文化や音楽的な歴史に触れる機会をもつ。

第4学年 教材「こきりこ」「日本の民謡」



この題材で学習する内容

- 日本各地の郷土民謡を鑑賞しながら、それぞれの曲の成り立ちや民謡独特の特徴的な歌い方、また演奏されている和楽器について学習する。
- 富山県民謡「こきりこ」を教材に、リズム伴奏や楽器の選択、曲の構成などを小グループで工夫し、まとまりのある合奏をつくる。

小集団活動とクラス発表会

合奏づくりではまず「ささら」を演奏しながら歌い踊る映像を鑑賞し、「こきりこ」の原曲の雰囲気味わった。その後小グループで互いの思いを共有しながら、自分たち独自の工夫を盛り込んだ「こきりこ」をつくり上げた。題材のまとめとしてクラス発表会を行い、互いの演奏の工夫点やよい点を聴き合い、さらにクラス全員が一つの輪になって演奏を楽しんだ。この活動を通して、日本の音楽に深く親しむことができた。



第5学年 教材「春の海」



この題材で学習する内容

- 世界の国々の特徴的な音楽を鑑賞しながら、それぞれの国の文化や歴史、風土などに触れる。
- 「春の海」を鑑賞し、和楽器の響きや日本の旋律の美しさを学び、さらに箏の演奏体験を通して日本の文化に触れる。

第5学年 教材「久松音頭」



本校では開校記念日に合わせて「開校記念集会」を行っている。毎年5年生は地元久松町の昔の様子を歌った「久松音頭」を演奏し、その演奏に合わせて3年生がにぎやかに踊ることが受け継がれている。また4年生は授業で学んだ久松小学校の歴史などを発表している。

留意点

◎日本の音楽を学ぶ活動を通して日本の風土、文化、歴史に親しみ、さらに諸外国にも違った芸術や文化があることに気付かせ、それらを尊重する態度を養うようにする。

高学年 図画工作「世界の国や日本の文化のよさを作品に生かそう」

世界の文化に目を向けたり、日本の伝統的な技を試したりして、それぞれのよさを学ぶ。

第5学年「世界を旅して」 第6学年「世界の国のイメージから」

世界の国の風景や文化をテーマにしてイメージを膨らませ、5年生では、板を電動糸鋸で切り抜いて立体作品に、6年生では、パステルや絵の具を使って平面作品に表現する。



第4学年「もののきもち」



日本の伝統文化である水墨画に使われている墨と竹ペンで絵を描き、墨の濃淡や線の描き方を工夫し、墨での表現のよさを味わう。

第6学年「寄木工芸」



箱根の伝統工芸品である寄木工芸の方法を取り入れて、色の違う木を組み合わせ、木の色合いの美しさを生かした作品をつくる。

留意点

◎世界の国や日本の文化に興味、関心をもち、よさを自分の作品に生かせるような題材を選んだり、取り入れ方を工夫したりする。◎事前に資料を集めるなどの準備ができるように、早めに課題についての説明をする必要がある。

第4学年 英語活動「私たちの町 行きたい国を伝えよう」

- ・日本の国旗と世界のいろいろな国の国旗との違いを知り、他国の文化や歴史に触れる機会をもつ。
- ・ゲームを通して自分が行ってみたい国について伝え合い、異文化に対する興味や関心をもつ。



- ・自分が行ってみたい場所の言い方についてALTにデモンストレーションしてもらう。
- ・ALTから様々な国の紹介を聞き、自分が行きたい国の食べ物や文化などについてインタビューを行う。

絵カードをつかって



様々な国の国旗などの絵カードを使い、日本とは違う文化や国の様子について知り、外国について興味や関心をもつ。

進んでコミュニケーションを図る



友達やALTと一緒に外国語での表現の仕方を知り、ゲームなどの活動を通して、自分から進んでコミュニケーションを図ろうとする活動を行う。

留意点

- ◎世界の国々に興味や関心をもてるよう、カードやALTの話などを活用する。
- ◎外国語を使い、進んでコミュニケーションを図ることができるようにゲームやロールプレイング活動などで楽しさを十分に味わえるようにする。

全学年 小集団活動(全教育活動)・異学年交流(含 幼稚園・保育園)

- 全教育活動で小集団活動(3～4人)を核とすることで、相互理解を含め、人と関わる力の向上をめざす。また、相手意識や思いやりの心を育てるとともに思考力・判断力・表現力の育成と共生の精神を培う。
- 異学年交流を通して相互理解を深め、思いやりの心を育む。

小集団活動で期待すること

- 学習意欲の向上
 - 人間関係やコミュニケーション能力の育成(相手を考えた言動)
 - 思考力・判断力の向上
 - 多様な人と協働して学ぶ力の向上
 - 主体的性の向上
 - 思いやりの心の育成
 - 認知的能力の向上
 - 認め合う体験
 - 言語活動の充実(表現力の向上)
- 言語がコミュニケーションを充実させ、知的活動、思考力、判断力を向上させる
言語能力→思考力→実践力

小集団活動を用いた実践例

体育「バスケットボール」(6年)



チームメイトの動きをタブレット端末に録画し、作戦や話し合いに活用する。

国語「じどう車くらべ」(1年)



話すことへの抵抗をなくすために小グループで仕事に合った造りかどうかを話し合う。

特別活動「4ハット会議」(4年)



4人の役割を決め、それぞれの立場に立って一つの課題について積極的に話し合いを進める。

社会「大むかしのくらし」(6年)



学習問題に対して、集団内の考えを共有し、自分の考えを再構築する。

算数「図形の面積」(5年)



根拠を明らかにしながら筋道を立てて説明する経験を全員がする。

体育「マット運動」(3年)



個々の技能を高め合うために、課題に合った場や練習方法を伝え合う。

生活科「町たんけん」(2年)



小グループで地域を巡り、地元の方々から様々な話を聞き、まとめる。

図工「パッケージデザイン」(5年)



話し合いによって考えたデザインを、工夫しながら形に表現していく。

音楽「場面に合う音をつくろう」(3年)



つくりたい音のイメージを共有するために、様々な音源を十分に試しながら話し合いを重ねる。

異学年交流で期待すること

- 小さい子にとっては身近な人を目標とすることで意欲や好奇心が高まる
- 上級生にとっては、自覚が高まる
- 人間関係の深まりやコミュニケーション能力の育成
- 相手(年齢)に応じた伝え方・伝わる力の育成
- 表現力の育成
- 拠点とする場所や居場所の広がり
- 相手の立場に立って考える力の育成

異学年交流の実践例

1年生サポーター(1・6年)



新1年生のお世話を6年生が行う。何をどのようにしたらよいか考え、サポートする。

水泳サポーター(6年)



夏季水泳教室では、6年生が当番制で水泳学習のサポートをする。

幼稚園交流(幼・5年)



5年生の総合的な学習の時間で園児のための縁日を計画し招待し交流する。

ふれあいタイム(縦割り班活動)



1年生から6年生までの縦割り班で、なわとびやゲームなど計画を基に楽しむ。

全校による交流給食



異学年で給食を食べたり、ゲームで遊んだりする。

ブラスバンド(4～6年)



4・5・6年生が休み時間や放課後に練習をし、朝会や運動会で演奏する。新入部員に楽器ごとに教えていく。

留意点

- ◎ 小集団活動・異学年交流ともに、相手を受け入れ、思いやりの心をもって関わる体験であること、共生社会の担い手としての大切な活動であることを意識して指導する。

第2学年 体育科 体づくり運動遊び「チャレンジ! にんじゃランド!!」

- ・友達と仲良く運動し、思いやりのある温かい人間関係を築こうとする気持ちを育む。
- ・体を動かす楽しさを味わい、思い切り運動遊びに取り組みながら基本的な動きを身に付ける。
- ・健康教育の一環とし、小グループでの活動を核に運動の楽しさを味わい、豊かな心と健やかな体を育む。

友達と関わり合うために**小グループ活動 (3～4人)**

友達の動きのよさを認めたり、友達と励まし合ったりしながら運動遊びを楽しむことができるように、活動は主に小グループで行うようにする。

**ハッピーワード・ハッピーアクション**

よい言葉掛けやよい行いを全体で共通理解し、活用するために、学習の振り返りや学習カードなどからハッピーワード・ハッピーアクションとして出し合ったり、掲示したりする。

**楽しく運動遊びに取り組むために****場や用具の工夫**

楽しく運動遊びに取り組むために、形や大きさの異なる用具を用意したり、児童が選べる複数の場を設定したりする。

**「忍者」になりきる**

夢中になって楽しく運動遊びに取り組んだり、児童の学習意欲を高めたりするために、忍者などの役になりきって取り組む。

**留意点**

◎低学年では発達段階を考慮し、児童が運動に自然に取り組めるようにするために、幼児期からの運動遊びを参考にするなどより楽しめる運動遊びを取り入れたり、役づくりなどの設定をしたりする。

第3学年 体育科 器械運動領域「マット運動」

- ・ 協力、協働して運動に取り組み、互いの違いやよさを理解できるようにする。
- ・ 自分の力に合った課題をもち、運動の楽しさや喜びにふれながら挑戦しようとする態度を育む。
- ・ 健康教育の一環とし、小集団活動を核に、運動・スポーツの魅力を味わい、豊かな心と健やかな体を育む。

小集団活動(3~4人)の活用

【知る段階】

自己の動きに気付くために、互いの技を見合い、できているポイントや課題となるポイントを伝え合う。

【取り組む段階】

自己の課題に合った場や練習方法を選ぶために、互いに自分のめあてを伝え合ったり、動きを見合ったりし、個々の技能を高め合えるようにする。



教材・環境の工夫

楽しみながらマット運動につながる感覚づくりをするために、動物歩きやゆりかごを工夫して取り入れる。また、楽しみながら技能を身に付けるために坂道マットやレールマットなどの課題に合った場を設定する。



ゆりかご

坂道マット(後転)

学習カードの工夫

自分の課題に合った場や練習方法を選択できるように、技能ポイントを3つに絞り、ポイントに沿った場や練習方法を学習カードに載せ、その場で確認・記入できるようにする。



自分のめあてや練習方法が一目でわかる

グループで確認しながら記入する

声掛けの掲示

小集団活動を活性化させるために、学習カードの記述や児童の発言から、よい声掛けを取り上げて掲示する。

- ・ 技能ポイントに関するアドバイス
- ・ 場や練習方法を選ぶための声掛け
- ・ 励ましや喜びを表す声掛け

励ましの言葉

上手だね。

いいね!

できてるよ。

アドバイスの言葉

もう少し〇〇するといいよ。

もっと体をまるめて転がるといいよ。

留意点

- ◎技能を身に付けることだけに偏らないように、小集団での活動の仕方や声掛けなど関わり合いを重視した指導をする。
- ◎運動をする楽しさを味わわせるために、感覚づくりや場の設定を工夫する。

第5学年 体育科(保健領域)「心の健康」

- ・心は、生活経験を通して、年齢に伴って発達することや心と体は相互に影響し合うこと、不安や悩みに対する対処の仕方について理解する。
- ・豊かな心につながるような、よりよく人と関わっていくための方法を理解する。



この単元では、目には見えにくい心の健康について学習をした。

第1時 心の発達(年齢に伴う発達)

第2時 心と体のつながり

第3時 心の発達(人との関わり)

第4時 不安や悩みの対処

心の健康を支える大きな力となるものが、よりよい人との関わりである。自分の感情をコントロールすること、相手の立場や気持ちを理解すること、自分の気持ちを上手に伝えることなど、よりよく人と関わっていくための方法を理解するとともに、それを実践していく意欲・態度を育てることができた。

自己肯定感



「自分発見カード」に自分のよいところを記入した。そして、友達から見たよいところを記入することにより、自己肯定感を高めることができた。そのことを自分を大切にする気持ちにつながっていきたいと考えた。

伝える力



友達への伝え方を小集団で考える活動を取り入れた。攻撃的・受け身的・アサーティブな伝え方を知り、グループでお薦めの伝え方を考えることができた。

相手や自分のことを考えて会話をすると、自分も相手もよい気持ちになれることがわかった。これからの生活に生かしていき、人との関わりをもっと深めていこうと思った。

留意点

◎人とうまく関わっていくためには、自分の感情をコントロールし、伝え方を工夫しながらも自分の気持ちは率直に伝えることが大切という思いをもつことができるように配慮する。

第6学年 体育科 陸上運動「リレー」

- ・めあての達成に向けて、互いに協力し、安全に配慮して運動しようとする態度を育む。
- ・自分や仲間の記録向上を目指し、技能ポイントを意識して学習することができるようにする。
- ・小集団活動を有効に行い、互いに関わりを深めながら、運動・スポーツの魅力を味わい豊かな心と体を育む。

小集団の活用

子ども同士が声を掛け合って一緒に運動する楽しさを味わい、よりよい関わりを築くために、2人の小集団をつくり活動する。聞き役になりがちな児童も、小集団の中では、自分の考えやアドバイスを気軽に申し出たり、質問し合ったりすることも可能となってくる。このような相互作用による集団思考が授業を活性化させ、児童個々の学習を深めていくことになると考える。



ICTの活用

タブレット端末を小集団内で活用することにより、自分の動きを見ながら友達のアドバイスを聞くことができ、課題解決へのイメージをもちやすい。さらにこの端末を介して豊かな関わりを生み、小集団活動がより活性化することが期待できる。



アドバイスカードの活用

小集団での教え合いを、より質の高いものにしていき、子ども同士が主体的に言葉を掛け合うためには、友達の動きに応じた適切な言葉掛けをする必要がある。そこで、言葉掛けの例の資料を作成し、仲間の課題や姿に対して声を掛けられるようにした。また、賞賛する際も「どこが」「どうよかった」を伝えられるようにする。



協働的な活動ができる学習環境の工夫

消極的な態度になりがちな走力が低いと感じている児童の意欲を喚起するために、直線のセパレートコースで、2人でバトンパスをする「2人走(リレー)」を実施した。「2人走」では、2人の22.5m走の合計タイムとの差を得点化し、走力や技能が低い児童の頑張りも認められるようにした。



留意点

- ◎小集団活動が活性化し、豊かな関わりを生み出すためにICTを有効活用する。
- ◎積極的かつ適切で具体的な言葉掛けができるように指導を工夫する。

健康教育

福祉教育

キャリア教育

人権教育

(相互理解)

全学年 総合的な学習の時間・体育等「オリンピックの講演・実技指導」

オリンピックの講演会や直接交流により、オリンピック・パラリンピックの理念や価値を理解し、スポーツへの関心を高め、夢に向かって努力したり困難を克服したりする意欲を培う。

平成25年度

猪谷千春さん

アルペンスキー
コルティブダンペッツオ五輪
銀メダル



冬季オリンピックでは日本人初のメダリスト。聖火リレーの実物のトーチを手にした子どもたちはとても嬉しそうだった。

石黒由美子さん



シンクロ 北京五輪 日本代表



柴田亜衣さん



競泳 アテネ五輪 800m自由形 金メダル

**平成26年度**

萩原智子さん

競泳
シドニー五輪出場
200m背泳ぎ第4位
200m個人メドレー第8位



病気を克服し、見事復活を遂げた真のトップアスリート。「できない」と感じたとき、それは「できる」ようになるすてきなチャンスだと教えていただいた。

白戸太朗さん

トライアスロン
プロフェッショナル・トライアスリート
日本人初のワールドカップシリーズ
で世界を転戦
世界各地のアドベンチャーレース
に参加



アイアンマンレースでは、まさに自分自身の見え隠れする弱い心との戦いです。「成功するまでやり続けられ、それまでの失敗は、失敗ではなくなり成功へのステップとなる」というすてきな言葉をいただいた。

平成27年度

陣内貴美子さん

バドミントン
バルセロナ大会出場
『news every』キャスター



靴を揃えておくことや感謝の気持ちをもつことなど、誰もが大切にすべき心得について話していただいた。



バドミントン経験のある児童に実技指導をしながら、アスリートの技を披露し、卓越した技に歓声があがった。

赤井英和さん

ボクシング
インターハイ優勝
アジアジュニア選手権優勝



生死をさまようほどのけがをして引退したことが、芸能界という次のステップにつながった。ピンチはチャンス、夢は絶対に叶うといった、児童のこれからの生き方に関わる大切な言葉をプレゼントしていただいた。



高平慎士さん

陸上競技
北京大会 男子4×100mリレー銅メダル
ロンドン大会 男子4×100mリレー第5位



バネを使って走ることが大切であり、手や足のリズムを合わせて普通のスキップをしたり、前方に大きく進むスキップをしたりする練習方法を指導していただいた。



講演では楽しいこと、好きなことを見付けるためにたくさんの経験をすること、その中で自分が一つがんばり続けられるものを見付けてもらいたいと児童に伝えていただいた。

【児童の感想】

- ・目標をきめて自分の納得がいく努力をしようと思った。納得のいく努力をした人が納得のいく結果を出せると思った。
- ・練習は目標をもって真剣にやることが大切だと思った。私は運動に自信がないけれど、胸をはってやってみようと思った。
- ・「決しておもしろく、楽しい練習ではないが、成功した時の喜びがとてもうれしい」という言葉に感動した。あきらめずに努力し続けることが大切だと分かった。

留意点

◎スポーツへの興味・関心を高めることばかりではなく、「常に目標をもって努力し続けよう」「感謝の気持ちをもって人と関わり合って生活していこう」といったキャリア教育という視点でも価値付けを行う。

健康教育

福祉教育

キャリア教育

人権教育

(相互理解)

全学年 総合的な学習の時間・体育等「パラリンピアン」の講演・実技指導

パラリンピアン講演会や直接交流により、パラリンピックの理念や価値に触れることを通して障害者スポーツへの理解を図り、ボランティアマインドを醸成する。

平成26年度

佐藤真海さん



陸上競技(走り幅跳び)
ロンドンパラリンピック 第9位
東京大会招致委員会プレゼンター



病を克服し、高い志をもって生きてきた佐藤さんの体験談をお話しいただいた。「大切なものは、私が失ったものではなく、今、私にあるもの」という言葉から、これから未来へと羽ばたいていく子どもたちが、苦しいことや辛いことがあったとき、前向きに生きてゆくエネルギーをいただいた。

平成27年度

木村潤平さん



競泳 パラトライアスロン
アテネ・北京・ロンドン
パラリンピック3大会競泳日本代表



全校児童と幼稚園の5歳児が講演会に参加した。様々な人々との出会いを大切にすることや、チャレンジし続けることで悔いのない人生を送ろうと日々努力を重ねていることの素晴らしさを伝えていただいた。

目標をもって生きることって素晴らしい。自分も今できることを精一杯やりたい。

留意点

◎障害者理解やボランティアマインドの醸成を進めるとともに、人間のもつ可能性に気づき、自らの可能性について考える機会とすることで、キャリア教育につなげることが大切である。

全学年 休み時間 体育等「マイスクールスポーツ（水泳）（なわ跳び）」

運動することの楽しさや上達することの喜びを味わうことができるようにマイスクールスポーツとして水泳となわ跳びに関する活動の充実を図る。

水泳

区の水泳大会とは別に、5,6年生合同での校内水泳大会を学校独自で行っている。
体育学習では、集団活動を取り入れ、主体的・協働的に学び合うことで一人一人の泳力を高め、思考力・判断力の育成を図っている。

なわとび

年間を通して短なわとびの活動を充実させている。休み時間には、運動委員会がなわとび検定を行っている。学級ごとに長なわ8の字とびの記録づくりにも挑戦し、なわとびに親しんでいる。

サポート教室

毎年「水泳サポート教室」「マット・跳び箱サポート教室」を行い、運動が苦手だったり、基礎的・基本的な内容が身に付いていなかったりする児童に、教師が個別指導する機会を設けている。参加した児童の多くが技能の高まりを実感し自信を付けている。

運動することって楽しい。できるようになって嬉しい。

留意点

◎水泳やなわ跳びを通して、すべての児童が体を動かすことの楽しさを味わうことができるよう活動方法を工夫する。◎教師が技能ポイントを十分に理解し、適切に声を掛けていくことが大切である。

全学年 放課後「ロング放課後遊びの時間」

児童が自由に運動遊びを楽しむ時間と互いに関わり合う機会を確保し、健やかな体の育成を図る。

ロング放課後遊び



時間、空間、仲間の減少という、現代の児童をとりまく運動遊びについての課題を解決する場として「ロング放課後遊び」の場を設定し、児童の運動遊びの時間を保証している。

時程の工夫

毎週火曜日、木曜日はB時程として、朝学習と掃除の時間をなくし、6校時終了時刻を40分早めている。児童は60分間運動遊びを自由楽しんでから帰宅している。

曜日	月	火	水	木	金
自程	通常	B	通常	B	通常
朝学習 掃除	あり	なし	あり	なし	あり
ロング 放課後		○		○	

週2回 60分間

プレイリーダー



運動遊びの充実を図るために、教師は可能な限りプレイリーダーとして児童と関わり、遊びの楽しさを伝える。伝統・伝承遊びも広めることで、遊びのレパートリーを増やすことができるようにする。

いつでも どこでも だれとでも思い切り体を動かして遊びたい。

留意点

◎十分な時間と場所を確保するように配慮することで、運動遊びの内容も充実させることができる。◎教師が安全管理を行うとともに、遊び方や関わり方を伝えていくことが大切である。

第6学年 総合的な学習の時間「考えよう、今の自分にできること」

デイケアセンターに通う高齢者との交流を通して、人間尊重の精神を基盤に、協力してよりよい生活を築こうとする能力や態度を育成する。

1日目



2日目



「考えよう、今の自分にできること」

～堀留町デイサービスセンターの訪問～

総合的な学習の時間では

- ① 自ら課題を見付け、問題の解決や探究活動に主体的、創造的、協働的に取り組むこと
- ② 人との交流や体験活動を通して、他者や自分と異なる考えなどについて知ること

を大切にして活動している。本活動では、1日目に高齢者の生活を体験する中で、高齢者のことをよく知り、次回に「高齢者に楽しんでもらう」という課題解決のための情報収集をする。そして楽しんでもらう方法を主体的に考え、それを実現するために小集団活動による協働的な学習を展開していく。

自己表現力

「高齢者を楽しませる」という課題解決に向けて、児童が考える方法は多種多様である。
自分なりの表現方法で、高齢者に喜んでいただいたり、温かい言葉を掛けていただいたりする中で、様々な立場の人と協力してよりよい生活を築こうとする態度を育てることをねらいとしている。

相互理解・共生

課題を解決する方法だけではなく、高齢者との関わり方も児童それぞれである。
しかし、どの児童にも共通しているのは「高齢者の目線で考える」という視点である。その人の身になって考える経験が相互理解の気持ちを育み、相互理解の上でのコミュニケーションが図られた時、様々な立場の人々と共に生きていくことの楽しさや価値を感じることができる。
高齢者との交流を終えた児童は、どの子も自信に満ちた表情をしていた。

留意点

◎立場や年齢が違う人々と関わり「すべて助けてあげることが優しさ」と考えがちである。◎交流の事前事後での指導を大切にすることで「本当の相互理解」とはどういうものなのかを考えることができる。その過程が、更に活動の価値を高めるものとなる。

オリンピック・パラリンピック教育の目標

- 体を動かす心地よさを十分に味わえるようにし、多様な動きを経験する中で体を動かして遊ぶことが大好きな子どもを育てる。
- 人との関わりを楽しむ経験をしながら、相手を思いやる心を育む。
- 様々な交流活動や国際理解教室をより充実させ、豊かな心を育む。

オリンピック・パラリンピック教育に向けた主な取組

「豊かな心と健やかな体の育成」をめざし、園生活の充実を図るために、
オリンピック・パラリンピック教育を推進する。

- 友達との関わりを楽しみながら、相手を思う気持ちや互いのよさに気付く心を育むために、体を動かす遊びや製作活動を多く取り入れる。
- 地域へ関心をもてるようにするために、地域の人との関わる機会を設定する。

<人権教育>
<社会への関心>

- 豊かな心を育むために、積極的に自国の文化や伝統文化に触れ、自国のことを知る機会をつくる。
- 国際教育の充実を図るために、外国の文化を知らせるとともに、外国の人と触れ合う機会をつくる。

<国際教育>

- 多様な運動遊びをする機会と、体を動かす楽しさを感じられるようにするために、イメージや意欲がもてるような環境づくりをする。
- 運動遊びを楽しみながら、体力づくりを進めていく。
- 自分の体に関心をもつように、食べることや健康であることの大切さに気付かせる。

<健康教育>

人権・平和

国 際

健 康

小学校（オリンピック・パラリンピック教育）

- 体を動かして遊ぶことを楽しむ。 <健康教育>

多様な動きや運動遊びをする機会を保障する。体を動かす楽しさを感じられるようにする。

全園児 好きな遊び



先生や友達と一緒に



思いきり走る



ルールのある遊び



転がって遊ぶ

好きな遊びに繰り返し取り組む中で、多様な動きが経験できるようにしてきた。また、勝敗やルールのある遊びなどを通して、友達と関わりながら遊ぶことも楽しんでいた。

○日本の伝統文化に触れたり、地域の方々と触れ合ったりすることを楽しむ。

<国際教育>

<社会への関心>

- ・ 自国の文化や伝統文化に触れ、自国のことを知る機会にする。
- ・ 地域の人と関わる機会をもち、地域へ親しみや関心をもてるようにする。

全園児 親子七夕飾り



笹を届ける



短冊のお願い

親子で七夕飾りをつくった。4歳児は、できあがった笹飾りを久松警察署・区民館に届け、5歳児は、玄関で地域の方に呼びかけ、願い事を書いてもらった。自分なりの思いを伝えたり、喜んでもらったりする経験となった。

4・5歳児 地域めぐり(お正月)



異学年の関わり



獅子舞・唱和

地域の商店などへ獅子舞をしながら訪問し、地域の方々と触れ合いの機会をもった。日本の伝統的な文化にふれることができた。

○いろいろなスポーツに興味をもち、アスリートの方の話を聞いたり、触れ合ったりすることを楽しむ。

○講師の方の演技を見たり、一緒に体を動かしたりして、遊ぶことを楽しむ。

<健康教育>

<人権教育>

- ・ 多様な運動遊びをする機会を設ける。
- ・ 人との関わりを楽しむ経験をしながら、相手のよさに気付けるようにする。

5歳児 「白戸太朗さん (トライアスロン選手) 講演会」



バイクに触ってみよう



真剣に聞く子どもたち

トライアスロンの競技について、興味をもって話を聞いていた。また、バイクに触らせてもらい、喜ぶ姿が見られた。

5歳児 「荻原智子さん (元オリンピック水泳選手) 講演会」



腕はまっすぐに



荻原さんと一緒に

「できないことは、これから頑張るとできるようになること・あきらめない心が大切」という貴重な話を聞き、子どもたちは喜んでいました。

全園児 「ダブルダッチを見る会Peromance Team PADMA) 5歳児 ダブルダッチやマット遊びを楽しむ。



一緒に跳んでみよう



マット遊びに挑戦



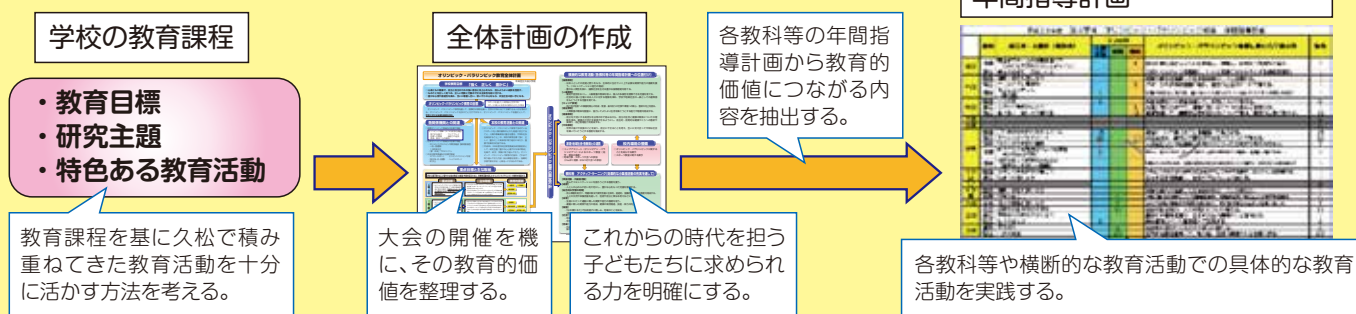
ダブルダッチの演技を見て

講師の方々のダブルダッチや跳び箱などの演技を見て、子どもたちは、大迫力の動きに大喜びだった。5歳児は、ダブルダッチやマット遊びに挑戦した。その後の遊びに、刺激を受けて、自分でやってみようとする姿が見られた。

久松のオリンピック・パラリンピック教育の考え方とまとめ

オリンピック・パラリンピック教育の考え方

○オリンピック・パラリンピックの教育的価値を教育課程に位置付ける。



※詳しくは中央区立久松小学校のホームページで御確認ください。

成果

○人権・平和、国際、健康の3つを柱としたオリンピック・パラリンピック学習の成果

人権・平和

○人を大切にする思いやりの心や平和な社会を築こうとする態度の育成に関する指導を学年に応じて学ぶ計画を作成することができ、児童の豊かな心の育成にもつなげることができた。

国際

○他国の文化や習慣のよさを知り、違いを認め、尊重する態度が育っている。
○日本の文化のよさを実感する機会が増え、自国の文化に誇りをもつ児童が増えた。

健康

○健康・体力の増進に向けた体育授業等、日常的な体育・健康に関する指導はすべてオリンピック・パラリンピックに直結していることを確認し、より一層の充実を図ることができている。

課題

- 授業や横断的な教育活動の中で、副読本や映像資料のより効果的な活用法を考えていく。
- 4年後の東京の姿を意識し、それに対応していける児童の育成を段階的に進めていく。
- 東京大会終了後も継続することのできる教育活動となるように教育課程の中に根付かせていく。

【御指導いただいた先生方】

平成27年度	中央区教育委員会指導室長 統括指導主事	佐藤 太 先生	丸山 順子 先生	副参事 幼児教育担当専門幹 指導主事	吉野 達雄 先生	大屋 博文 先生
		柄澤 武志 先生			川越 裕子 先生	
平成28年度	東京都教育庁指導部主任指導主事 中央区教育委員会指導室長 統括指導主事	折本 昭一 先生	尾上佐智子 先生	副参事 幼児教育担当専門幹 指導主事	清水 浩和 先生	平野 収 先生
		吉野 達雄 先生			猪瀬 賢一 先生	
		柄澤 武志 先生			川越 裕子 先生	
					清水 浩和 先生	

【オリンピック・パラリンピック教育に携わった教職員】

平成28年度				園長 太田 禎子				主任 田村 みず希			
校長 酒井 寛昭				副校長 新屋 由美子				【幼稚園】			
【小学校】								年少			
1年	森田 慎	湯澤真理子	音楽	松村 裕子	古館 俊江	村上 佳織	阿部 真秀	阿部奈津代	吉本 千尋	深瀬 良子	麻耶
2年	南村 章子	幸徳扶美子	図工	千葉 日織	太田 倫子	山下 直子	吉本 千尋	鈴木久仁子	深瀬 良子	麻耶	
3年	関口里可子	幸徳扶美子	理科	上野 弘子	安井 教晶	加藤 幸代	高木 淳子	高木 淳子	高木 淳子	高木 淳子	高木 淳子
4年	川合 晶道	越智 啓太	算数少人数	養護教諭	事務	非常勤教員	算数少人数講師	体育指導補助員	栄養士		
5年	高橋まい子	菅野 志保	太田 知依	鈴木可奈子	岸谷 紀久						
6年	杉田 高樹	川瀬 穰									
	大沢 卓美	友晴									
	中嶋 幹雄	水上美穂子									

平成27年度

【小学校】				【幼稚園】			
高石 美佳	伊藤 幸恵	醍醐いづみ	比毛 幸子	早川 幸	梅本 理紗	佐久間栄美	櫻井 美樹
門間 政博	杉坂康二郎	澤登 千恵	片岡 奈津	北爪 隆子	齋藤有紀恵	夏目 篤子	
				岩城 隆子	夏目 篤子		